

村半利活用検討会（令和5年度第5回）結果報告

日時 令和6年3月11日(月) 16時～17時

場所 村半 大会議室

出席者 検討会メンバー4名、地域ラボ・高山 支援員 1名、事務局(総合政策課) 4名

内容

1 協議事項

(1) 利用状況等について

- ・令和5年12月～2月の利用状況や占用利用実績等について説明
- ・今後の占用受付について

(2) 令和6年2月の市内高校テスト期間の状況について

2 報告事項

(1) 卒業生へのメッセージ

(2) 高山工業高校からの模型の寄贈について

(3) 高山工業高校との木製家具製作プロジェクトについて

(4) 2023年メモリアルボードについて

(5) 近隣の方への広報誌

<意見交換、質疑> メ:構成メンバー、地:地域ラボ・高山支援員、事:事務局

(1)(1) 協議事項に対する意見等

メ:中学生は村半で何をしているのか。

事:勉強している子もいるが、交流している子が多い。ゲームをしたり、お菓子を持ってきて話している。

メ:施設の利用目的に合っているか。

事:以前は勉強をしている学生だけの利用という日が多く見られたが、今年に入ってから、勉強以外のことをしている学生が多くみられる。勉強もしながら息抜きでゲームをしたり料理をするなど、様々な利用が見られるようになってきた。

メ:小中学生は施設を汚していきやすいか。

事:注意をしているが、使い方は高校生よりも大雑把なように思う。話せばわかってもらえるが、繰返しの声掛けが必要だと思っている。

事:社会性ができていない中で、直接叱るということはないように、何が悪かったのか自主的に気付くよう促すようなことをしていきたい。対応に時間はかかるが丁寧に行うようにしている。

メ:心配なのはスタッフ。様々な年齢層の利用が増えてきて、様々な利用がされてきている中で、スタッフの数は変わらない。手当は十分に支給されているのか。

事:給与の面では令和6年度より給与を改定する予定。スタッフへのフォローもするように努めている。

メ:スタッフの数を増やすことはできるのか。

事: 昨年朝と夜勤務のパートスタッフが何人か退職し募集をかけたが中々集まらなかった。市内の他の施設でも同じような傾向だが、村半は夜や土日勤務があるなど勤務条件の影響もあると思う。

メ: 今いるスタッフが苦しくならないようにしてほしい。

事: 以前、観光でみえた見学の方への対応について利活用検討会で相談させてもらったが、現在は利用者の対応を第一にして、観光などで見学にみえた方に対しては、自由に見学いただくようにするなどスタッフの対応時間を短くしている。今年度は占用利用と共用利用が増えてきたが、そこへの対応が一番時間がかかるため、対応時間や業務を軽減できる方法を考えていきたい。

メ: 人と関わるところにスタッフが注力できるようにしてほしい。エピソードを共有できる人というのは子どもたちにとって大事な人になるので、関わる時間を最大限に作ってほしい。

事: 中学生との関わりは、叱るということではなくて、何か物事が起こると関わりが増えるので、それは大変というよりもありがたいと思っている。何か起こったときに中学生の子に「これはどういうことかな？ どうしたら良いと思う？」と問いかけができる。何か起きるから関わりができると思っている。中学校からの関わりができることで、名前や顔を覚えることができる。長い付き合いになる彼ら、彼女たちに長く利用してもらえるように大事にしていきたいと思う。

メ: 一生懸命してもらえるのはありがたいが、労働条件はきちんとしてほしい。

事: テスト期間など利用者が多い時期の対応も考えていきたい。

メ: 資料の中で、「社会人の方が『学生と供用で利用したかったが入りにくい』と申し出があった。社会人の方からは、『本当は学生と一緒に利用し、社会人とのつながりを作っていくところだと思っていた。学生優先の場所であって社会人は使いにくい感じなのか』という話があった。」という事案が記載してあるがこれはどういうことか。

事: 社会人の方から3人でミーティングをしたいと相談があり、話し合いをするのであれば声も出るし集中したいこともあるだろうから占用利用はどうかと座敷の間を勧めた。そこで、社会人の方から、村半では学生がいるところに大人も一緒になって使うことができる施設だと思っていたが、学生寄りの施設になってきて大人は使いにくい感じなのかと聞かれ、また、20代の若者も利用しやすいようにしてほしいし、学生とのつながりを持ちたいと話があった。私からは、テスト週間のときは学生中心の利用をお願いすることもあるが、決してそういうわけではなく学生がいても入ってもらって構わない。つながりを作るところという思いはあるがうまく機能していないし、どうすればつながっていいのか、つながりを作っていないところを悩んでいると話した。

事: 若者とつながりたいという相談が大人からあった場合は、子どもにとってもメリットがあるかという点で考えている。ただ、大人側がどのような方かすぐにはわからなくて判断ができないということもあるなど、つなげるということは難しいと思っておりどのように進めていくと良いか悩んでいる。先日大学生から、大学の活動で地域の課題解決に取り組んでおり、村半で何かできることはないかという話があった。そこで村半から若者と大人をつなぐところで悩んでいると相談しこれから話を進めていく予定である。これがひとつのきっかけになれば良いと思っている。

メ: 以前高校生と話をしたときに、社会に出るというハードルをすごく高く考えている印象があった。就職することにプレッシャーを感じて、思っていたより自分のパフォーマンスが違っていたり、待遇が違うために就職しても早々に離職したり、仕事を辞めたらその後どうしようと悩んでいる子もいるという話を聞いた。村半で学生が大人と関わることができることは大事と思う。子どもにとって社会には一線があると思うが、その線をグレーにするような混ざり合えるような場所に村半はあってほしいと思う。仕掛けられると良いと思うが自主事業は考えているか。

事: 今は考えていない。利用者がやりたいことがあったときに一緒にやるという考えでいる。

(2) 報告事項について

「高山工業高校との木製家具製作プロジェクトについて」に対するご意見

メ: 製作費用はどのようにしているのか。

事: 材料費、塗装費を市が出している。製作は部活動で行っており、年々工夫して作ってきてくれる。

(3) 閉会のあいさつ

事: 利用者への関わり方、業務内容など不変のものもあれば変えていかなければならないところもある。持続可能な村半であるためにご相談することも出てくる。よろしくお願ひしたい。

以上